

長崎ウエスレヤン大学現代社会学部国際交流学科の名称変更の事由及び時期を記載した書類

## 1. 名称変更の概要

### (1) 名称変更の内容

(現在の名称)	(変更後の名称)
現代社会学部 英訳名 (Faculty of Contemporary Social Studies)	
国際交流学科 英訳名 : Department of International Studies	外国語学科 英訳名 : Department of Foreign Languages

### (2) 新名称の対象年次

第1年次

## 2. 名称変更の事由

### 【設置当初の国際交流学科の目的】

国際交流学科は、現代社会学部が対象とする国際的に広がりを持つコミュニティの持続的発展に必要な諸分野で、高い語学運用能力と総合的なコミュニケーション能力により、多文化共生社会の担い手となる人間の形成を目的としている

多文化共生を実現するために必要とされることは、自己の価値観を確立するとともに異質な価値観との出会いの中で自己を相対化する能力である。また、地球規模の人権の確立と平和の実現を強い志として持つことが重要である。さらに言葉や文化の壁を越えてコミュニケーションを成立させることのできる能力が不可欠である。

国際情勢が大きく変化する21世紀においては、単に語学力を有するというだけでは、充分ではなくなっている。地球規模の人権の確立と平和の実現を基本的な視座として、社会情勢の変化を読み取り、その変化によって新しく生じるニーズに対応できる人材が求められている。

国際交流学科は、このようなニーズに対応し、体験・参加型の特色ある教育プログラムにより、外国語運用能力を中核とする総合的なコミュニケーション能力とともに、社会開発の視点から経済開発・国際協力活動を進める専門的能力の習得を通して、国際的な舞台で自らが活動したいという場所を見つけ、社会に貢献できる真の「地球市民」(Global Citizen)の育成を目指すものである。

### 【開設後の教育研究の取り組み】

国際交流学科は、2005年に開設して以来、上記の学科の目的を達成するため、教育研究に取

り組んできた。特に外国語運用能力の養成にあたっては、正課のカリキュラムをはじめ、海外提携校との交換留学制度や海外研修、校内での留学生との交流による様々な国際交流プログラムを展開しており、これにより英語運用能力が高められている。2008年度にはカリキュラム改訂を行い、授業科目を TOEIC ベースの内容に変更した。併行して 2007 年度には、これまでの国際交流の実績を活かし、広くアジア地域からの留学生受け入れに積極的に取り組むため、日本語担当教員の配置を含め、日本語運用能力養成プログラム関連科目を増設している。

また、2010 年度には、社会福祉学科のカウンセリング科目を本学科でも同時開講することにより、海外心理系大学院への留学を目的としたコースプログラムの設置するとともに、現代社会学部経済政策学科の設置に伴い、同様の方法により、海外実務ビジネスに関するコースプログラムを設置する予定である。

#### 【学科名称の変更理由】

本学科では、教育研究上の目的を達成するため以上のような取り組みを行っているが、その中心は外国語運用能力の修得を目指している。そのため、学科の人材養成目的と学習到達目標をより明確に表すことができるよう、学科名称を、「国際交流学科」から「外国語学科」に変更する。

### 3. 名称変更の時期

2011(平成 23)年 4 月 1 日